

DEEP DIVE Challenge

謎の穴と謎の突起：中国 ICBM サイロ

DEEP DIVE 小原凡司

衛星画像分析を行なっていると、何のための施設・装備か分からないものもあります。DEEP DIVE Challenge は、こうした疑問を皆さんと一緒に考えたいと思い、問題を提起するものです。

それら疑問の内の一つが、中国の ICBM サイロ・フィールドに見られる謎の穴と謎の突起物です。中国は、2020 年頃から新疆ウイグル自治区の哈密 (Hami) に約 110 基、甘肅省玉門 (Yumen) 付近に約 120 基等、ICBM サイロを建設してきました。

そのうち、玉門付近の ICBM サイロ・フィールドにだけ、用途不明の穴が存在しています。図 1 は、玉門付近の ICBM サイロ・フィールドの一部分で、黄色い丸で囲まれているのが ICBM サイロ、赤い丸で囲まれているのが問題の穴です。

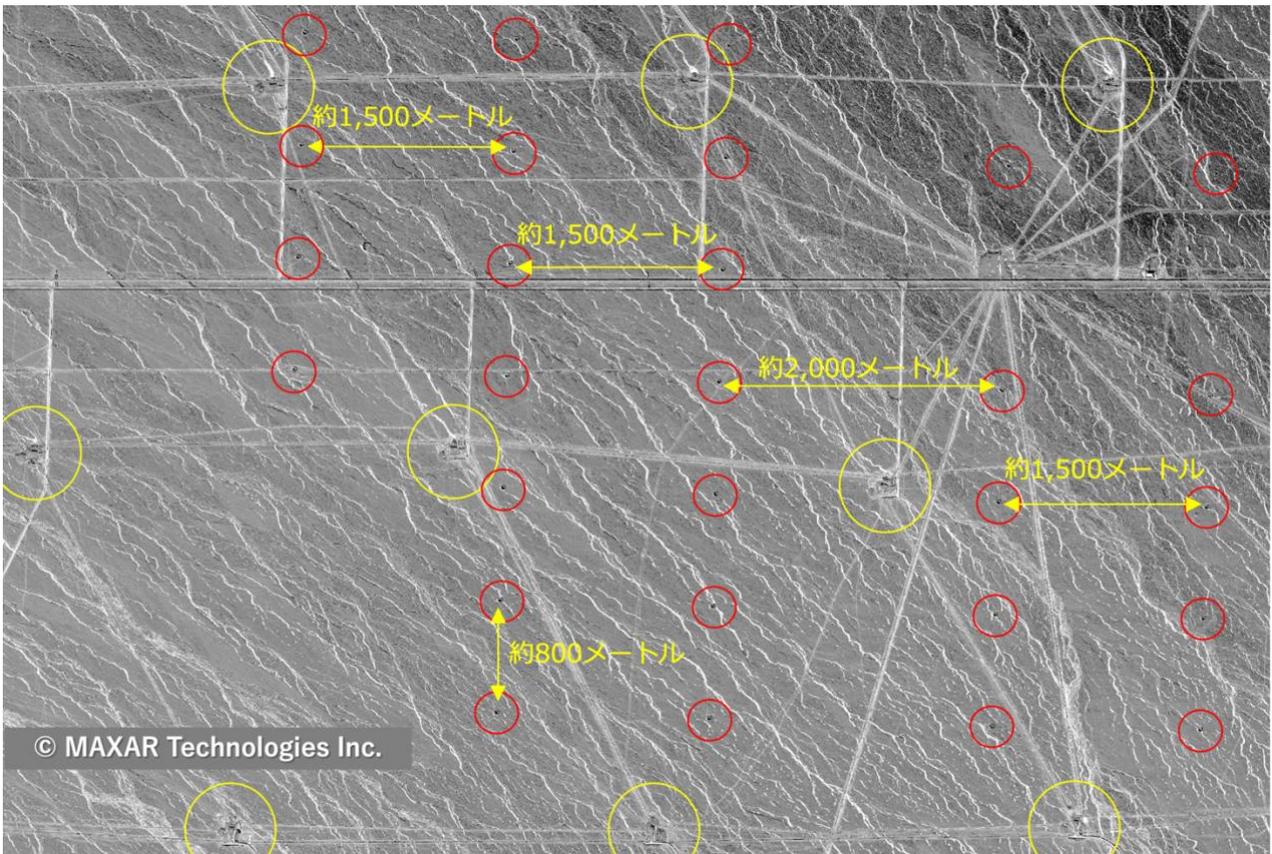


図 1 甘肅省玉門付近 ICBM サイロ・フィールド (2024 年 12 月 30 日)

これらの穴は規則正しく 28 個穿たれており、玉門 ICBM サイロ・フィールドの中でも、

この部分にしかありません。



図2 ICBM サイロ・甘肅省玉門付近（2024年12月30日）



図3 用途不明の穴（2024年12月30日）

図2は、玉門に設置されたICBMサイロの120基の中の1基です。サイロの蓋の形状が確認できますが、米国が採用しているスライド式ではなく、ロシア式の、ヒンジなどを用いて蓋が上に開く形状であるように見えます。

図3は、これらサイロとは別に穿たれた穴の画像です。外側の穴の直径は約17メートルで、内側に直径約5メートルの小さな穴が確認できます。外側の穴の周囲には土塁が作られており、一箇所、出入り口が設けられています。土塁が作られていることを考えると、穴の

中にいる人間あるいは設置される装備を何かから守ることを企図していると考えられます。



図4 ICBMサイロ建設中から存在する穴 (2021年7月3日)

また、図4に示すとおり、これらの穴はサイロの建設当初から作られています。最初から、必要性に基づいて計画的に建設され、現在まで整備されていることとなります。以前、問題提起しましたが、他の安全保障の専門家等も明確な回答を出せませんでした。



図5 新疆ウイグル自治区哈密 ICBMサイロに見える突起物 (2025年1月11日)

一方で、新疆ウイグル自治区哈密 ICBM サイロには、謎の突起物があります。図 5 に示すとおり、この突起物はサイロによって配置が異なっており、3つであったり2つであったりします。これら突起物は哈密 ICBM サイロ・フィールドにしか見られず、玉門付近のフィールドの穴とは異なる目的を持って建設されたもののように見受けられます。

これらの穴や突起物が何の目的で建設されたのか、一緒に考えてみませんか？皆さんのご意見をお寄せください。興味深いご意見は、広く紹介させていただきます。